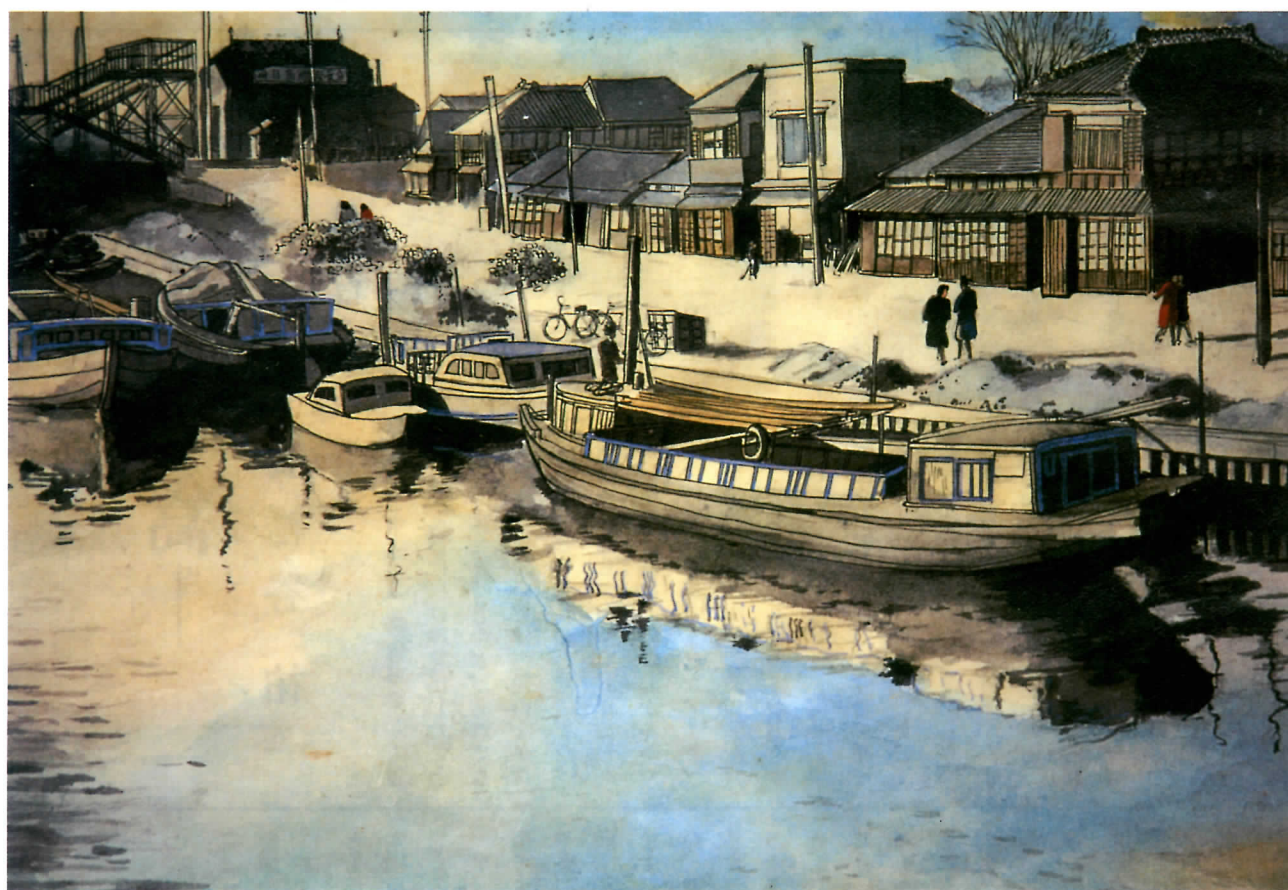


進修同窓会報

発行 土浦一高進修同窓会 編集人 同窓会会報編集委員会 委員長 横田尚義 印刷 常陽新聞社



川口川 中27回 佐賀 進

平成十年度 進修同窓会総会開かれる

去る四月十二日(日)、本年度定期総会が母校体育館にて、約二百五十名の会員出席のもとに盛大に開催されました。

まず、校歌斉唱・物故会員に対する黙祷ののち、幡谷祐一会長・長瀬宗男校長の挨拶があり、大曾根宏亮副会長を議長として以下の議事が審議されました。

- 一、平成九年度事業報告
- 二、平成九年度決算報告
- 三、平成十年度事業計画
- 四、平成十年度予算
- 五、同窓会基金報告
- (A) 平成九年度決算
- (B) 平成十年度予算
- 六、別途積立金報告の件
- 七、百周年記念事業会計報告
- 八、役員の改選について

七号議案については、三月二十六日現在での会計報告書が提示され、建設費・記念誌編集費・記念式典費・事務局費などの詳しい説明がなされました。八号議案については、二名の退任に伴い、青山和義氏(高八回)が副会長に、長南紀郎氏(高八回)が監事に就任されました。また、新役員として学校長の長瀬宗男氏(高十一回)

が顧問に就任されました。

そして、十分な審議ののち、全議案とも満場一致で可決・承認されました。

閉会の後、引き続き母校体育館にて恒例の卒業周年祝賀式が開かれました。本年は、中三十七回(六十周年)、高十・定八回(四十周年)、高二十五・定二十二・二十三回(二十五周年)の方々をお招きしました。本年の祝賀式に五十周年がないのは、戦後の学制改革の時期にあたり、中四十八回と高一回生が同学年のため、来年一緒に五十周年を行うためです。

祝賀式では、幡谷会長のあいさつの後、中四十八・高一回の海老原雄一氏より祝辞が述べられ、招待者への記念品贈呈の後、中三十七回(六十周年)の豊嶋貴氏より謝辞が述べられました。

また、会場を別に移しての祝賀会では、往時を懐かしんでの交歓が和やかな雰囲気のもとで繰り広げられました。特に、高十回(四十周年)の方々の参加が多く、祝賀会はたいへん盛り上がりましました。高十回は、同窓生の皆様もご存じの通り、夏の甲子園に出場した学年です。

会長あいさつ

— 土浦一高 —

同窓会会長 幡谷 祐一



百周年の記念行事もすべて完了した今、責任を果たし終えたという思いがひしひしとこみ上げております。これも、同窓会の皆さん

の熱いご支援、そして学校の発展を思う心があつてのことと、深くお礼を申し上げます。

思えば、八十周年の記念式典を私の父、仙三郎が会長としてとり行ない、今また私が同窓会長として百周年の行事を行ったことになりました。

昭和十六年の春に卒業して以来、殆ど母校には顔を出したことはありませんでしたが、それでも

水戸支部においては、鈍いながらも活動はしておりました。また、副会長も仰せつかっておりましたが、突然会長にとの話しがあった時は戸惑いもありました。しかし、意を決して、百周年記念「募金会長」であると割り切ってお引き受けしました。爾来七年、何とかすべての計画を達成して今日に至りました。

今更言うまでもありませんが、現代の若者達に日本の将来がかかっています。しかし、残念ながら、戦後の教育の荒廃が、独立国の尊厳を教えず、剩え国旗の掲揚や国家の斉唱までも否定する始末です。全くもって言う言葉をもちません。

私は、別に国粹主義者でも何で

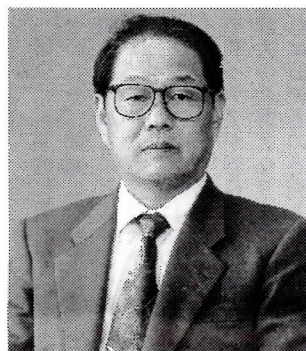
もありません。ただ、一般的な、平凡な国民として、自分の家族を愛する如く、国をも大切に出来ないのかと思うと、情けなくなるのです。ましてや、日本を悪く言うことが風潮としてあり、またそれを飯の種にする物書きがいることには、失望という言葉が当てることも出来ません。墮落しきった日本国民、というより異国民とさえ思えるのです。

アメリカは表現も発言も自由な国ですが、こと自国に対する非難や悪口に対しては、いやなら出て行けと、大衆自ら大きな声で言います。国というのは、国民の生命、財産を守る責任と義務がありますが、この点に対する日本国民の意識が希薄なのでしょう。

話が逸れてしまいました。こういう風潮の中にあっても、土浦一高は校長はじめ諸先生方の毅然とした教育方針が浸透しております。質実剛健にして、国を憂える若者が順次果立っていくことは日本の将来にとって頼もしく、今後更に後顧の憂いをなくすべく活躍されることを願っています。

創立101年 新世紀への旅立ち

学校長 長瀬 宗男



進修同窓会の会員の皆様には、ご壮健にてご活躍のことと心からお喜び申し上げます。昨年、十一月一日、創立百周年記念式典が本校体育館にて、盛大に開催できました。記念事業実行委員長（同窓会会長）幡谷祐一氏をはじめ多くの同窓生のご協力に感謝申し上げます。式典出席者全員で校歌を斉唱した時には本当に感動いたしました。また、記念事業として、同窓会館兼アリーナ（進修記念館）、倉庫兼部室、旧本館庭園の改修工事、百周年記念モノUMENT建立及び創立百周年記念誌「進修百年」発行等、教育環境、精神的な礎として本校のますますの発展に寄与することでしょう。ほんとうに有難うございました。その上、今年度は、硬式野球部にバッティングマシン一台、吹奏楽部にクラリネット等の楽器五つの寄付及び進路指導部への補助など大変お世話になっております。部活動が活発化するなかで、高額な物品類は県費で

はなかなか購入することが出来ません。大切に使用させていただきます。本当にありがとうございます。

さて、次に十一月八日（日）に予定しております、定時制創立五十周年行事についてでございます。

本校に定時制が併置されたのは、昭和二十三年でした。戦後の混乱期で食べるのに精一杯の時代で、高校への進学率も三七%から四二%くらいでした。昼間働き、夜疲れた体に鞭打って勉学に勤しんだ定時制の卒業生は、五十年間で千七百六十六名のほります。

苦勞を共にした友と語り合い、定時制教育の一層の発展を図るために創立五十周年記念式典を行うことにいたしました。現在、式典に向けて定時制創立五十周年記念事業実行委員長柳沢正男氏のご協力のもとに、「星座」記念号の発刊など鋭意努力しているところです。

本県の定時制は、現在十二校に配置されていますが、応募する生徒が年々減少しております。しかし、本校では、毎年応募者も多く活気があります。平成七年度からは、三修三卒制度（水戸南高の通信制、大学検定試験で合格した科目の単位を本校で修得した単位と合計して卒業単位に達した者は三年で卒業出来る制度）を導入した

り、二、三、四年生への転入や編入を積極的に取り入れるなど活性化に努めています。ここで、本校の現況についてご報告いたします。最初は今春の進学状況ですが、東大への合格者は少し減少しましたが、筑波大学への合格者は過去最高を記録いたしました。現役合格率は六六・五%では例年通りです。詳しくは、十一面をご覧ください。

入を積極的に取り入れるなど活性化に努めています。

ここで、本校の現況についてご報告いたします。

最初に今春の進学状況ですが、東大への合格者は少し減少しましたが、筑波大学への合格者は過去最高を記録いたしました。現役合格率は六六・五%では例年通りです。詳しくは、十一面をご覧ください。

次に学校行事、部活動等の活動状況ですが、恒例の一高祭は六月五日、六日、七日の三日間行われました。今年のゲートはコンスタンティヌス帝の凱旋門でした。校門にそびえたつ凱旋門に進行く人も目を奪われていました。一高祭は昨年十二月頃より生徒達が自主的に企画立案したもので大変好評でした。九月には一高オリンピック、十月には歩く会、その他一年生は、環境教育を兼ねた尾瀬での共同宿泊学習、東京で本物の芸術を味わう芸術鑑賞会、二年生は進路講演会、職場見学等多様な行事を生徒の自主性を生かしながら行っています。

部活動の活動状況ですが、運動部への加入状況は、五五・二%と半数以上の生徒が毎日練習に励んでいます。特に男子は六〇%の生徒が加入しており、文武両道をモットーとする本校にとっては嬉しいことです。硬式野球では昨年秋季の大会で激戦の県南地区代表として八年ぶりで県大会に出場いたしました。夏の大会は三回戦突破を目標に頑張りましたが、初戦に宿敵土浦三高に惜しくも4対5で涙を吞みました。本年度の秋の大会

では一回戦東洋牛久に3対0で勝ち、代表決定戦でまたしても土浦三対戦し延長十回、2対5で惜敗しました。水泳では、二年生女子二名が関東大会、インターハイに、うち一名が国体に出場、混合女子四百メートルリレーで七位に入賞いたしました。そのほか、弓道部、陸上競技部が関東大会に駒を進めました。その他、軟式野球部では春の大会で県三位、サッカー部とラグビー部は県でベスト8にと活躍しております。

次に入学選抜制度の変更ですが、これはシステム上の変更はありませんが、平成十一年度入学生の入学者選抜における隣接県公立高等学校への入学志願者取扱い協定の一部が変更されます。今まで本校には千葉県からは志願出来ませんでした。現在の中学三年生からは千葉県の柏市、我孫子市などの属する第四、第五、第六通学区から本校を受検することが出来るようになります。ただし、千葉県と茨城県との併願は出来ません。普通科については合格者数に募集人員の一五%以内と制限がありますが、理数科については制限がありません。入試について、ご不明な点がございましたら学校にお問い合わせ下さい。理数科と普通科の相違点ですが、教科書等の教材、授業内容は同じです。しかし、理数科は授業科目に理科、数学が多く、理工学部に進学に適した内容となっております。学校の内容については、インターネットでご覧いただければ幸いです。終わりに在校生に望むことです。

現在の日本の経済は、嵐の真只中、今まで考えられなかった大会社がアツと言う間に倒産してしまふ時代です。各企業ともリストラによって生き残りを図り、雇用の創設どころではないようです。

昨年度の四年生大学卒業生の就職率は、六五・六%だと聞いています。アメリカの経済にも陰りが出てきたとか、これからの世界の行く先はますます不透明で先が見えない時代になると思います。来る二十一世紀を良き時代とすることが出来るかは、皆さんの双肩にかかっています。これから求められる人材は、ただ単に知識量を増大させた頭脳ではありません。創造性、チャレンジ精神、行動力のある人材です。即ち、自ら問題を発見し、考え、実行できる力。既存の概念を超えて新しい価値を創造できる力。未知の世界に飛び込み、自ら課題を達成していく開拓精神旺盛な人。高度な専門性、専門分野について基礎学力を備えた人。組織の中で個性や持ち味を発揮できる人。そして一番大切なのは、豊かな人間性を備えた人です。高校時代は専門性を身につけるための基礎学力の育成とともに人としてどのように生き、どうすれば自分がこの社会の幸福のために寄与出来るのかを学んでいただきたいと思っています。

最後になりましたが、私はこの四月の定期異動で高校教育課から転任して参りました。

高校十一回卒業です。微力ながら本校発展のために努力したいと思っております。ご支援ご協力よろしく願いたします。

私の研究生生活と 研究へのいざない

高15回 高野

忠

(文部省宇宙科学研究所教授
(併) 東京大学教授)

一、研究者とはどういう人種か
研究者という存在は、今でこそ
つくば研究学園都市のおかげで身
近に感じていると思いますが、私が高
校生の頃の土浦近辺では一般的に
存在ではありませんでした。この
研究者の一人として、自分の考え
方や生活ぶりを紹介して、この分
野に進みたいという人の参考に、
また他の人には研究というものを
理解する材料にしていだきたい
と思います。

研究は学問的に新しいことをま
とめたり、問題になっていること
の解を求めることです。その進め
方は、先人や周囲の人から教えて
もらえても、内容は世の中に存在
しないことをやるわけです。従っ
てアイデアが勝負で、自分の頭が
最大の武器となります。ただしこ
れは研究者の専売というわけでは
なく、優秀な企業経営者や会社幹
部という人達には、それぞれの分
野で自分のアイデア・信条をもっ
た人が多いと思います。

研究者は他の社会人に比べ、ど
ちらかというと高学歴な人と接す
るようになります。お互い判り合
える人と付き合うわけですから、
不本意な付和雷同、酒・ゴルフ・
麻雀などの付き合いも無しで済ま
せられます。逆に言うと、付き合
いの幅が狭くなる可能性がありま
す。

従って研究者に必要な素質は、
次のようになるでしょう。
①アイデアが豊か。
②つつこみ鋭く、執着心がある。
③知的好奇心が強い。
④体力・気力がある。

それでは研究者の利点は何でし
ょう。まず、組織への過度な気配
りが不要で、同一レベルの人との
対人関係がスムーズであれば良い
ということでしょう。そのため一
般の職業に比べ、自由度が高く、
自分に誠実に生きられます。逆に
時間と資金を自分で管理する必要
があります。自分の生きざまを蓄
積でき、かつ折り折りを論文等で
明確に残せるというのも特長でし
ょう。

研究生生活と言っても、さまざま
の学問分野や所属する組織(大学
・国立研究機関・企業の研究所
等)が必要となります。私は大学
院を出てから電電公社(現NTT)
の研究所に入り、その後現職に就
きました。上に述べたことはどこ
でも本質的に同じですが、若干の
差があるように感じます。

二、日々の生活

研究の目的に沿う生活として
は、まずアイデアを出す工夫です。
「日本人は独創性が無い」などと
いう人もいますが、これはとんで
もない話で、工夫次第でアイデア
は出るのです。そのためには、長
い時間一つの問題について考える
ことが第一でしょう。計算や実験
をしている時は勿論、電車の中で
ぼーとしながらも考えていると、
ある時ふっと解決の糸口が浮かぶ
ことがあります。他の関係分野に
ちよつと目を向けるのも、参考に
なつて良いものです。例えばこの
間、直径十メートルという世界最
大の折り畳み型のアンテナを宇宙
に打ち上げました。その基礎研究
は機械工学系の先生と共に始めた
ものですが、アンテナ構成上のヒ
ントをたくさん貰うことができた
した。

このような研究生生活に入るのを
躊躇させるのは、孤独で厳しいも
のだということかもしれません。
実際、暗礁に乗り上げることもし
ばしばです。そのような時は、気
分転換も必要となります。研究者
は人付き合いが商売ではありませ
んが、テニス、ゴルフ、登山等の達
人が多いのもそのためでしょう。
論文や頼まれ原稿等の書き物
も、研究の重要な産物です。これ
は時間を節約して、こなすしかあ
りません。書き物は常に携帯して、
ちよつとした時間で書いていきま
す。この原稿も、ゴルフに行くの
に自動車でなく電車を使うことに
して、その中で構想を練つたもの
です。

このように紹介すると、研究者
というのは、いつも追い立てられ
ていて、家庭生活もぎくしゃくす
るのではないかと考える人もいる
でしょう。ところが私の家は現在、
子供が受験準備で親に構わない
し、家内も文学の研究者で時折り
／＼切に追われています。逆に私が
企業の管理者であったとしたら、
多分、土・日曜は付き合いゴルフ
に忙しく、うまくかみ合わないか
もしれません。現在のところ、い
たつて全員歩調が合つて、家庭内
の話ができるのです。

学生の研究指導や大学での講義
もあります。ご承知のことなの
で省きます。



三、対外活動

学会は専門分野での情報交換と
専門家同士の親睦を深めるのが目
的で、会員のボランティア活動で
運営されるのが殆どです。その
時々学会内の役割が廻つてしま
すが、負担はものによつて大分異
なります。電子情報通信学会の研
究会の委員長をしていた時は、月
に一度は研究会を主催したり、結
構大変でした。

自分の研究成果の発表は、最も
大事なことで考えています。その
発表方法は、発表内容に劣らず重
要なことです。どんな立派な内容
でも、聴衆に判ってもらえなけれ
ば、何の価値がないのです。高校
まで私は人の前で話すのが苦手
で、研究者として駆け出しの頃の

発表では、随分失敗しました。そ
れでも回数を重ねて、なんとか自
信を持てるようになりました。
外国での学会は、さらに緊張す
ることは言うまでもありません。
出発前には発表資料のとりまとめ
や関係者との意見交換で忙しく、
帰つてくると留守中の仕事の処理
で忙殺されます。しかしそれでも
外国での仕事は、実績等の点で意
味があります。また私は歴史や地
理が好きだったこともあり(雨谷
先生のおかげ)、世界のどの国も
固有の文化、風景、そして食生活
を持っていることを楽しんでいま
す。

四、次の世代に向けて

いくつかの国は世界史の一時
期、豊かで輝く時期がありました。
ローマ、大英帝国、アメリカ等で
す。その時、有り余る金をつぎ込
むことによって、それらの末裔が
豊かに暮らしているようになり
ました。投資対象は、広大な領土
や壮大な建築物であり、近代に至
つては、科学技術を代表とする研
究成果でした。いままさに、日本
は有史以来初めて豊かな時代にあ
ると思います。この金で無駄使い
と言われようとどこか領土を買い
込んでおくとか、数百年残るよう
な壮大な土木建築物を作ること
は出来そうにありません。ですから、
我々は研究成果によって、後の子
孫が、豊かだった我々に感謝して
くれるようにすべきであると思
います。そのためには、若い優秀な
人材が研究で能力を発揮すること
を期待します。また社会は、これ
をサポートする仕組みを作る必要
があります。

恩師を訪ねて

③

青山学院大学名誉教授 和田 隆先生

本校在職(英語科) 昭和十六年一月～十八年四月



「和田君、新潟の村上中学へ行くかかね。」と当時の広島高師の英語科の河合先生に言われた。「わしと同期の小和田君(雅子妃の祖父だつた)が校長だから」とのこと。しばらくして「新潟は雪が多いからやめて、近くの土浦中学からは非との話があるから行くように」とのこと。県の方に履歴書提出の際、毛筆が苦手なので、茨城師範に希望していた同期の佐藤陸治先生(後に県の教育長になられた)に書いてもらった。同じ筆跡の履歴書だったが、二人共目出度く採用。三月末に赴任、早速入試合格発表と同時に組分けして一年A組の担任を命ぜられ、生徒名を毛筆で書いて発表、下手な毛筆の字をみて情けなく、男泣きに泣いたのである。学年主任が永山先生、共に組担任をした山崎先生にはあれこれと指導をいただき只々感激あるのみ。一年生に英語、四年生には修身と週二十六時間の授業。ABCの正しい発音からの大声での授業で、六月には声が全くつぶれ、下宿に帰って洋服を着替えず三時頃まで寝てしまつたり

した。何しろアエウエオと発音する生徒がクラスの半数もいたのだからびつくり仰天。英数国の週末試験は先生も生徒も大変だつた。ガリ版刷りの印刷も始めての経験で、鉄筆に力を入れすぎると原紙が切れ、反対に弱すぎると写らない。文字通り四苦八苦の連続だつた。

しかしこんな苦労も純真な生徒達の燃える向学心によつて吹き飛んでしまつた。受験期になると、大先輩の武井・高須の陸海の将星からの激励の書簡が廊下に張り出され、どんなにか受験生に刺激を与え、後につづくことができたか計り知れないものがあり、進学率は抜群だつたのである。修身の授業中右翼団体に出入りして洗脳された一人の生徒が、このままでは日本は滅びるから重臣を殺してよいかと、いきり立つて質問した。放課後宿直室に呼んで、級長の今は亡きK君を立ち合わせて「人を殺せば国法を犯すことになるから、先ずお前が腹を切れ、小使室に切れる出刃包丁があるから」と大声で叱る。彼は力んで「切る」と叫んだ。本当に割腹したらどうしようかと、こちがたじろいでした。彼はその後教職につき定年退職したとのこと。

純真な勉学一途の生徒達をいつまでも教えていたかったが、校長

と事毎に意見が合わず、もう去るべき時がきたと観念し、千葉の成東中学へ転任。離校式の校長の言葉に「これから和田先生の告别式をやります」とのこと。早速「今校長は告别式と言つたが、わしはまだ生きているから皆と会おうと思えばいつでも会えるから……」と反論。最後の最後まで校長とは歯車が合なかつた。成東中学へ行つたら、生徒の質が悪く、土浦とは天地雲泥の差でがつくりした。

第四十五回生は一年置きに土浦で、東進会は東京で毎年、第四十二回生の在京生会も毎年クラス会を開いての招待。第四十五回生による「戦いの中の青春」の集いと文集は特筆大書すべきものだつた。その他に旧教職員会、英語科旧職員会の集いは毎年開いて下さる。昭和十七年に在宅(今の並木)で生まれた長女と孫達は千代田町に住んでいる。土浦は文字通りの第二の故郷である。土浦の思い出は滾々と出る泉の如くつきぬものがある。

このように土浦とは切つても切れない縁によつて結ばれている。仏教では「遠く宿縁を慶べ」とも説いている。親子は一世の縁、夫婦は二世の縁、師弟は三世の縁といわれるが、因縁の深さから考え第三の師弟の恩愛の上に深いものがあるに違いない。したがって師匠弟子、即ち先生と生徒ということに道が成り立っていることを忘れてはならない。普通「縁は異なるものの味なもの」といわれているが、そんな生易しいものではない。有難

いということとは、有ること難い、なかなかない、英語で言えば Hard to do ということである。有ること難い、滅多にしかない、又は一度しかないものである。土浦との縁はこのように只々有難いものである。こそ、感謝に値するものなのである。

日本の現状は凡ゆる面でパニック状態、遠からずローマの二の舞いを演じるのではないかと危機感におそわれて、倫理・道徳の観点から在校生や卒業生に卑見を述べ参考供したいと思う。

ローマは政治的不信と国民の奢侈と性の紊乱によつて滅んだ。旧唐書には「政に従う者は皆廉恥を知らず」と教え、小学には「奢より儉に入るは難し」と諭している。

一度奢つた生活をしたら質素な生活になかなかない。占領政策によつて強制された自主性尊重の教育を改めて、日本本来の教育に返すことこそが先決問題である。

子供に自主性があるならば、大人であるのだから教育の必要はない。自主性は到達点であつて、出発点ではない。本末転倒も甚だし

い。教育は人類始まって以来のもので、戦争に勝つたから負けたからといつて変わるべきものではない。道徳の空白がいつ充たされることもなく六十年もつづいて

いる。考えただけでも背筋が寒くなる。新しいものを盲信してはならない。たしかに物質文明に関する限り凡て新しいものは古いものに勝り、文明は新しいほどよい。しかし宗教・哲学・芸術・道徳の本質のような精神文化には古いとい

うことがなく、昔の人には解つていても、現代人には必ずしも解つていないとはいえない。今世紀最大

の歴史学者トインビーは「哲学的同時代性」ということを教えている。この同時代性ということからいえば、精神文化に関する限り、五百年や千年の時代の隔たりは同時代であるといえる。精神文化に関する限り昔の人の方が現代人よりも進んでいたといえるであろう。現代のわれわれは学ぼうと思えば過去の人物からいくらでも学べる。「現代は今生きている者だけによつて成立しているものではない。既に死せる人々によつて支配されている」とはフランスの哲学者コンートの言葉である。

現在、筆者は日本人のだけれども分かるような修身・道徳の本を書きながら、物質文明が進みすぎ、生活が豊かになり、暇になればなるほど増える不安や不眠、対人恐怖、強迫観念などの神経症に悩む人達のためにカウンセリングをしている。神経症は体には何の異常もないのに、心や考え方にゆがみがあつて、それにとらわれてしまふもので、レントゲンなどには写らない。人はみな心病んで生き、不安や悩み、ストレスのない人などこの世にはいない。この神経症は今や世界的に著名になった慈恵医大の森田正馬先生の森田療法によつて克服できるものである。生まれつき神経質な筆者は、学生時代森田先生と起居を共にして指導を受け、自然に服従し、境遇に従順にビクビク、ハラハラしながら、なすべきことをしてきたお陰で今日があるわけである。

追記

○質問のある方はどしどし。○夜を徹してでも天下国家を論じましょう。いつでも土浦に参ります。

卒業生レポート

③

難民を助ける会常任理事 事務局次長

長 有紀 枝さん

高三十四回(昭和五十七年卒)



◇高校時代の思い出

結城郡石下町から越境通学していた私の高校生活は、毎朝六時三十七分発のバスに乗ることから始まった。片道約一時間半かけての通学だったが、運動部に所属するのが当然と思い込んでいた。そもそもが体育会系の私は、男子部員しかいない陸上部に入部し、先輩や同輩、後輩に大きな迷惑をおかけすることとなった。皆のジョギングについて行けず、真鍋小学校付近で迷子になり、捜索(?)隊が出たりと、恥ずかしい思い出も尽きないが顧問の中村先生はじめ、仲間には大変良くして頂いた。友人や恩師とともに過ごした沢山の時間や、一高祭ともかけがえのない思い出だ。

一方、授業で一番惹かれたのは、古文、古典の世界だった。そんなこともあって現役時代は、何となく国立大学の文学部を受験したが取れ無く敗退。一浪後は、早稲田大学に入学し、政治学を学んだ。大学選びは早大出身の予備校時代の恩師の影響

に拠るところ大だが、学部選びはひとえに、高校時代、親友に勧められて読んだ庄司薫さんの「赤頭巾ちゃん気をつけて」の影響である。和歌や古典はもとと好きなのだから、わざわざ大学で専攻しなくても、自分でいくらか勉強するだろう。一方、「赤頭巾ちゃん」を通して知った社会科学は、大学で勉強しなければ、きっと一生触れる機会もなく終わってしまうに違いない。そんな、なかば直感的・本能的なひらめきから出た学部選びであったが、今でもこの選択は正しかったと思っている。

◇民族問題に目覚めた大学時代

大学二年から三年にかけての一年間、学内の交換留学制度を利用してアメリカのインディアナ州にある私立大学に留学した。大学入学当時は漠然とジャーナリストを志していたが、留学し、中西部の田舎町で自分自身が人種差別の対象となり、黒人問題・先住民民族問題に肌で触れると、一生、何らかの形で民族問題にかかわりたい、と思うようになった。中でも先住民民族問題に惹かれ、学部卒業後は、一年間外資系の銀行で働いた学費を捻出した後、母校の大学院で日本の先住民民族問題、アイヌ問題を研究した。幾度となく北海道へ足を運び、アイヌの市町村議会議員さ

んにインタビュースし、民主主義と少数民族の政治参加をテーマに修士論文を書いたが、院生としての二年間に学んだことは一言で言えば、「現実には複雑で、机の上では割り切れない」ということ。一見非常に簡単で、単純な事柄だが二年間、この事実が肌で触れたことは、その後、民間の救援団体「難民を助ける会」に職を得、戦時中の旧ユーゴに滞在し、泥沼の民族紛争をありのままに理解する上で、何より役に立ったと思う。

◇緊急支援

大学院を卒業し、外資系の企業で一年間働いた後、九一年夏に私はこの「難民を助ける会」の職員となった。難民を助ける会は七九年に設立された、政治的、宗教的に中立な日本のNGO(非政府組織)。ここから私は九四年夏、結婚三年目の夫を残して(！)内戦中の旧ユーゴに単身赴任をさせて頂いた。ここで過ごした一年半は、職業人としても人間としても、その後の人生の出発点になったように思う。それまで民族問題に関わる仕事がいざいざと漠然と考えていたが、ユーゴ、特に戦火のボスニアでの救援活動を通して、国連でも政府でもない「民間」の人道援助の分野で一生仕事をしていきたいと思うようになった。欧米のNGOに比べ規模が圧倒的に小さな日本のNGOの力の限界を思い知らされる一方で、その将来に限りない可能性を感じたからだ。戦火の混乱の中、正視できない悲惨さ、人間の愚かさ、激しい憎悪を目の当たりにし、むき出しの人間の生き様に触れる中で、それらを忘れさせてあまりある数々の出会いにも恵まれた。私の一番の宝物である。

◇対人地雷活動
旧ユーゴから帰国後、そして現在

も、難民を助ける会が組織をあげて取り組んでいるのが、対人地雷に関する活動である。対人地雷は言うまでもなく「兵器」であり、政治的・宗教的に中立の私たちとは一見無縁の存在だ。にもかかわらず、私たちが地雷という「兵器」の廃絶運動をするようになったのは、我々が活動する所にはどこにでも、この地雷問題が横たわっており、戦争が終わる、平和が来た筈の村や町で、女性や子供を含む無辜の市民がばらばらに命を落とすに手足を吹き飛ばされ、命を落としていた惨状を目の当たりにしたからだ。私たちは九六年から、「地雷ではなく花をください」という絵本を出版し、その収益でカンボジアやボスニアで地雷除去を実施、また被害者の支援をしたり、世界七十九カ国の千を超えるNGOの連合体「地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)」に加盟して、廃絶活動を行っている。活発な対人地雷活動を続けている。

九六年以来地雷プロジェクトを担当している関係で昨年は、「地雷問題ハンドブック」という本を書かせて頂いた。そのあとがきでも述べたことだが、地雷問題にかかわるようになってから、いつにもまして、後ろめたい思いに駆られることがある。それは、対人地雷の被害に遭われた方にあまりに悲惨な生や死に触れ、愕然とする一方で、私はと言えばあまりに貴重な経験や出会いに恵まれているからである。故ダイアナ妃には、昨年六月ロンドンでお目にかかり、日本の地雷廃絶キャンペーンの取り組みや協力頂いた「続・地雷ではなく花をください」出版のご報告をする機会に恵まれた。誠実な態度で、私たちの活動を励まして下さった姿は今でも鮮明に覚えている。ICBLが九七年度ノーベル平

和賞を受賞した際には日本の加盟団体の代表として、昨年十二月オスロで開かれた平和賞授与式に参列させて頂いた。晴れがましい思い出だ。そして、何より、英国の対人地雷の被害者クリス・ムーニー氏を長野冬季五輪の最終聖火ランナーという形で日本のおみなさんに紹介する機会をえたこと。外国人のクリスを長野五輪組織委員会に推薦するにあたっては、数々の紆余曲折があった。しかし、一度は諦めかけたそれが、実現した時、予想以上の反響の大きさに驚いたのは他ならぬ私たち自身である。思いがけない誤算もあった。長野オリンピックにクリスを登場させ、地雷問題を広く世界に知らしめたいという極めて戦略的な意図から始まったプロジェクトが、いざ蓋を開けて見ると、その余波は地雷問題に止まらなかったことだ。片手片足の聖火ランナーとしてクリスが提起したものは、地雷問題のみならず、障害の問題であり、障害を克服し、あきらめずに努力し、挑戦し続けることの大切さであり、人間の心の持ち方であった。どれも私たちのよこしまな思惑や期待を遙かに越えたものばかりだ。私は彼の「自分は善に向かつて進む大勢の人々の歯車の一部にすぎない」という言葉が大好きだ。幾度と無くクリスのこの発言を聞きながら、「就職しても絶対に社会の歯車にだけはなりたくない」などとは不遜なことを考えていた自分の学生時代を思い出しつつも、彼のこの言葉に、雨上がり朝の朝のような清々しさを感じている。一高卒業後十七年、少しは成長した(と思う)私も今は、クリスや他の多くの仲間とともに、大きな大きな歯車の一部として「善きこと」に向けて働けることを心から嬉しく思っている。

支部だより

仙台支部第一回総会を開く

進修同窓会の会員名簿には仙台支部と支部長名が記されているが、実際の会合や活動はなく今回が初めての総会となりました。関前支部長の呼びかけにより、総会の開催準備のため発起人会を平成九年九月二十六日、仙台市のパレス平安にて開きました。

中四〇回松本三郎 高 六回塚田昇

高 六回久田哲也 高 七回関信男

高 八回中山陸朗 高 一〇回内田勇

高 一〇回笹沼道彦 高 一三回藤野徹

高 一三回内田有洗 高 一四回酒井治

高 一八回平山隆 高 四〇回飯島宏征

支部総会は十月十八日(土)十三時より仙台市のパレス平安にて、全支部会員八十三名中二十四名が出席。幡谷祐一同窓会長、青山和義校長をお迎えして盛大に開催されました。

出席者全員で記念撮影を行い、あの懐かしい校歌を斉唱し、関信男氏の司会で発起人の紹介と新支部長の選出があり、私が新支部長となりました。支部長挨拶では、故郷を遠く離れると親身になって相談する人が少なく、勤務先や家庭内での悩み等を同窓生の助言等で解決出来ることも多いので、支部会では年齢の隔てなく親睦を図るよう話しました。その後で支部

長より母校百周年基金十万円を幡谷会長に贈呈しました。

幡谷会長は挨拶では百周年記念の募金について大変な努力をされた目標額を達成した苦勞話をお聞きしました。青山校長の挨拶では母校の生徒の学習状況、部活動、進学状況等の説明があり、特に進学状況では今年一流校の合格者が未曾有の好成績を収めたとのこと、母校の躍進は揺るがないと思えました。

挨拶が終わって宴会となり、自己紹介では勤務先の仕事や趣味等の話題に花が咲き、それらの話の中で、宮城県に定着する同窓生が最近急増している様だが、何故だろうか。それは宮城県や仙台市は関東人が考えているよりも気候・風土はもとより、その他の日常生活上もかなり住み易いこと等多くの支部会員が相槌を打っていました。

最後に母校の応援歌を歌い散会しましたが、短時間なので支部会員一同残り惜しうでした。

八郷支部

当支部は昭和三十年に発足、始めは数年前後に懇親会を開催、昭和五十八年より高校制度初期の卒

業生により活性化して毎年開催となる。毎回三十人前後の参加を得て和気あいあいの集会となる。

今年は八月二十二日に開催。来賓として多忙な時間を繰り合わせて濱田教頭先生、本会からは横田副会長さんをご臨席下さった。

開会に先立って屋外で写真撮影、続いて佐藤幹事の司会により、岡崎副会長の開会のことば、会長私の挨拶、特に昨年の創立百周年記念式典に出席した感想、新旧校舎及び記念建築物の写真を回覧したことなどに触れる。議題としては関(昭)幹事により前年度の会計報告、幹事会で審議した役員の再任の承認を戴く。続いて来賓教頭先生からは学校の現況、毎年連続して進学困難校への合格数が全国的に特筆するありさま、各部活動の状況などを。本会副会長さんからはご自身校長として在任時代から計画を進めた百周年記念事業が計画以上の協力を得られて、事業の充実ができたことなど語られた。更に会員でもある関野町長、桜井県議からそれぞれの立場からのお話を戴いて、比企副会長により総会を閉会する。



続いて関(肇)幹事の司会により懇親会、大先輩の発声で乾杯、杯を交わす毎に話がはずむ。名残りは尽きないが藤代幹事の音頭でなつかしい校歌斉唱、大先輩の発声で万歳を三唱して会を閉じる。

八郷支部長 小河原四郎(中三十八回)

百周年記念誌

進修百年 (B五版一、〇九一頁)

土浦中学・土浦一高 百年のあゆみ

頒布受付中です。

頒布価格

三、五〇〇円(送料別)

☎02998(22)0137

ご希望の方は土浦一高事務室までお問い合わせ下さい

「進修百年」編纂についての お詫びと訂正

創立百周年記念誌「進修百年」の編纂に際し、多大なご協力とご支援を頂き有難うございました。さて、編纂後左記のような誤植が判明いたしました。ご迷惑を心よりお詫び申し上げます。訂正させて頂きます。

◎グラビア(土浦一高点描)

二頁・下段

★進修記念館玄関ホール

↓進修学習館玄関ホール

◎八八頁・上段二十行目

★入江・飯泉組→入江・飯島組

◎一七三頁・下段十五行目

★助川士郎→助川卓

◎一九三頁・下段一行目

★中学四十四回→中学三十回

◎二二九頁・表中・数学科七人目

★矢萩力也 昭和394

↓矢萩力也 昭和374

◎七一〇頁・中段二十五行目

★不皿吉雄→木皿吉雄

◎八二〇頁・中段十九行目

★入江・津田・辻・大竹

↓入江・津賀・辻・大竹

◎八六〇頁・中段八行目

★八代島→屋代島

◎八六一頁・中段三行目

★田中良雄→田中義雄

◎九七〇頁・下段五行目

★思ます。↓思います。

◎一〇九二頁・奥付け

★電話02998(21)0137

↓電話02998(22)0137

電話02998(22)0137

おしらせ おたより

五回目の学年同窓会

「卒業三十五周年?」「え!嘘だろう?そんなに経ったの?」
十五回卒業生に学年同窓会開催
通知を出した時の反応です。手紙を書いた私も信じられないのですから、皆が驚くのは当たり前だと思います。

私たち十五回卒業生は、二十年前に卒業十五周年同窓会を開催して以来、五年毎に同窓会を開催していますので今回が五回目になります。平成十年六月二十日(土)に開催した卒業三十五周年記念同窓会当日は、お忙しい中ご出席下さった恩師八名と八十三名の同級生が久しぶりに顔を合わせ、楽しい一時を過ごしました。今回出席者が少なかったのは、サッカーのワールドカップ第二戦(対クロアチア戦)と重なったため?と勝手に想像しています。二次会会場にテレビも用意したのですが……。

少人数だったけれども、希望者が母校の同窓会館を見学し、アトラクションに「ピアノと歌」という盛りだくさんの同窓会でした。

卒業生三百七十七名の内、物故者が十五名、黙祷を捧げた時は高校時代を思い出し目頭が熱くなりました。しかし、八十五歳になられた学年主任の稲見敏雄先生がご出席下さったことはとてもうれしいことでした。先生は土浦一高教師を二十四年間なさって、学年主

任はたった一度だけだったのととて、十五回卒の同窓会は特別に楽しみだとおっしゃって下さいました。先生は授業を持たなかった生徒の名前までご存知で、その上出身地や家族のことまで良く覚えていて下さり、皆非常に感激しております。

今回ご出席して下さいました、雨谷昭、川村安宏、久保隆司、横田尚義、矢口四郎、池井芳寛、吉田久子の各先生方、また、ご都合が悪くご欠席なさった須田直之、鶴巻勝夫、河野利雄の三人の先生方、そして十五回卒の皆様、また五年後にお会いできるのを楽しみにしております。その時は稲見先生の九十歳のお祝いと我々の卒業四十年周年記念同窓会を盛大に行いたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(十五回卒代表幹事 野村ルナ)



挨拶する稲見敏雄先生

昭和五十三年卒 学年同窓会開催 (普通科三十回・理数科七回卒)

去る八月一日、昭和五十三年三月卒業の同窓生の学年同窓会が、卒業二十年目にして、初めて開催されました。土浦市内のマロウド筑波を会場に、約百名の同窓生が出席しました。また、お忙しいなか、平田増三、佐藤忠臣、片岡博、長壁英進、植木元生、鈴木利夫各先生のご臨席をいただきました。

まず、物故者三名(野沢奈利さん、後藤俊介君、飯島茂君)に対し黙祷を捧げたのち、応援指導部第十三代主将野沢博君の幹事代表挨拶、学年主任の平田増三先生の祝辞と厳肅のうちに行列、乾杯ののち、祝宴となりました。

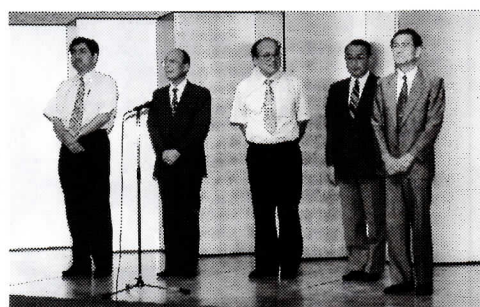
二十年ぶりの再会ということ、だいぶ容姿に変化がみられ、名前と顔が一致せず、持参した卒業アルバムを見ている者。二十年前と少しも変わらなず、タイムマシンに乗ってやってきたような者。仕事に、社会にバリバリ活躍している者など、多士済々でした。なかでも、教員をしている同窓生が多いのには大変驚きました。ちなみに、現在我が土浦一高では、池井芳則、大塚(古橋)奈美子、中江哲史、中島博司、山越好宏各先生が教鞭をとっています。

事前の幹事会では、二時間の長丁場なので、余興をどうする、料理は、酒は、といういろいろ考えていましたが、一番のご馳走と一番の

楽しみは、友との再会であり語りであることを再認識した一日でもありました。

最後に、野沢第十三代主将のリードのもと、参加者全員で校歌を斉唱し、五年後の再会を約束して、学年同窓会は終了しました。その夜は、クラスごとに二次会が行われ、盛り上がりつつあります。

(幹事 鈴木淳二)



恩師の先生方(右から平田・佐藤・長壁・植木・鈴木各先生)

平成十一年度

進修同窓会総会のご案内

日時 平成十一年四月十一日(日)
午後一時より

会場 母校体育館

卒業周年記念祝賀式
卒業60周年 中38回
卒業50周年 中48回・高1回
卒業40周年 高11回・定9回
卒業25周年 高26回・定24回
総会・祝賀式終了後、市内にて祝賀会を開催いたします。(事務局)

「進修文庫」について

「進修文庫」は、創立百周年にあたり設立されました。長い伝統をもつ本校から送り出された卒業生は、多方面にわたり活躍しており、著作物も豊富です。進修文庫には、本校卒業生の執筆による作品が現在約二百冊収納されており、本校内二階フロア(本館と特別棟を結ぶ通路)に設置され、多くの生徒に読まれております。

収納されている作品には、本校卒業生の著作による小説、評論、随筆、地方史、自分史、スケッチ集、画集、句集、歌集、科学書、スポーツ関係書、教育論文、他各種研究論文等の作品、本校を扱った書籍及び写真集、甲子園出場の記事集などがあります。

本校卒業生による作品を広く紹介し、さらなる文化の発展の一助になつて欲しいと思います。今後とも、ご寄贈のほどよろしくお願い申し上げます。(教頭濱田洋二)



「進修文庫」

母校だより

第五十一回一高祭

みんなの個性が輝やいた一高祭

一高祭運営委員長 高橋 孝治

去る六月五から七日、「覚醒めざめ」というテーマのもとに第五十一回一高祭が開催されました。今回は前回の一高祭のアンケート結果などから、人気の高かった企画の規模の拡大、また、新企画の導入など、前回の一高祭の良さをさらに発展させようと考えました。そして、実行委員は昨秋から活動を始めました。

一高祭初日、体育館での開祭式では、入学して二ヶ月の一年生三クラスがステージの上で劇を披露しました。各クラス、短期間によく準備・練習し、体育館は拍手と笑いの渦に包まれ、大いに盛り上がるスタートとなりました。

二日目と三日目は生徒一人一人が自由に活動しました。前回より数を増やした教室企画は、それぞれのクラスの個性が出ていて、中には廊下に列が出来るほど人気を集めるものもありました。また毎年恒例の広場でのディベード、アリーナ(進修記念館)でののど自慢などは、用意された椅子が全て埋まり、その周囲に人垣が出来るといふ人気でした。ゲート委員会では、その高さが五メートルを超える、まさに過去最高の作品「コンスタンティヌス帝の凱旋門」を一高祭当日ぎりぎりまでかかって



コンスタンティヌス帝の凱旋門

作り上げました。一年生三クラスがそれぞれに行った「まつり」も小学生達に好評でした。放送委員会では校内向けにFM放送を行いました。販売委員会の扱った店や生徒達のラジオから各企画のCMやリクエストなどが放送され、雰囲気づくりに貢献しました。当日は曇天で少々肌寒かったにもかかわらず、多くの方々に来校して頂きました。各クラス、各委員会、各部なども放課後遅くまで残って準備をしてきました。そうした一つ一つの努力の集大成として、今回の一高祭の成功があったように思います。充実した三日間でした。

私が実行委員長という立場を経験して感じたことは、自分の企画に対して熱意を持って取り組んでいる生徒の数がとても多いということです。一高祭は、そうした熱意によって支えられてきたのだと思います。これからの一高祭もこの良き伝統を受け継いで、さらに飛躍していって欲しいと考えています。

第二十一回一高オリンピック

「永遠の友情」をテーマに

一高オリンピック実行委員長

簡井 英一郎

去る九月十四日、第二十一回一高オリンピックが盛大に行われました。二年生、一年生が主体となる初めての行事であり、多少とまどうこともありましたが、実行委員一同、夏休み前から計画を進めてきました。

私は実行委員長という重責を担うこととなり、一高オリンピックにテーマを設定したいと考えました。そして、検討の末、「永遠の友情」をテーマとして取り組むことに決定しました。実際、オリンピックに向けての、各クラスの準備、練習、そして、当日の激戦の中で様々な形の友情をまのあたりにしました。

例えば、あるクラスでは、一人の人物のミスが敗北につながり、そして、彼らのオリンピックはそこで幕を閉じるのですが、「仕方ないよ」「ミスしない奴はいない」という言葉をかけ合う姿が見られるのです。当然、勝利チームは大いに盛り上がり、団結を深めます。

快晴のもと、各競技場では多くのドラマが展開されました。そして、午後の綱引き。この種目は唯一、担任の先生が参加出来る競技です。生徒と先生が力を合わせて綱を引く姿が印象的でした。最後に、一高オリンピックのクライマックス、クラス対抗リレーで、盛り上がりは最高潮です。リレーにはド



一高オリンピック 綱引き

ラマが付きもので、転倒による番狂わせや、クラスの期待を一身に受けて重圧と緊張で真剣に走る選手顔など、最高の競技です。

例年、この一高オリンピックを経るとクラスの輪がより大きく、つながりは強くなります。「高校時代の友は一生の友となる」などと聞くことがありますが、一高オリンピックは大きな意義を持つものだと思います。今回、私達の設定した「永遠の友情」というテーマのもとで、それぞれ忘れられない思い出を刻むことが出来たと思います。

最後に、この一高オリンピックの計画、立案、実施と、様々な形で御指導下さり、また陰で支えて下さった日向先生、菊池先生、本当にありがとうございます。また、全校生徒の前にして、当日の運営を担ってくれた委員、パンフレットを製作してくれた委員、前日の準備を遅くまでやってくれた委員、また全ての面で、委員長の私を助けてくれた副委員長、実行委員全員にお礼を言いたいと思います。

第一学年共同宿泊学習

実行委員長 切田 元

七月二十二、二十三、二十四日と第一学年共同宿泊学習が行なわれました。三日間という限られた日程の中、様々な場所に行き、より多くのことを学ぼうと、学年全体で準備を進めてきました。

一日目は「現代の社会問題を考える」というテーマの下に、クラス毎に様々な場所を見学したり、専門家の話を聞いたりしました。各クラス、見学場所に連絡をとり日程を立てたので、実行委員の仕事は大変多くなっていました。二日目は尾瀬散策でした。前日の夜、激しい雷雨だったので天気が心配されましたが、私達の心配をよそに快晴となりました。鳩待峠からのコース、清水から

のコース、どちらも尾瀬を満喫し、改めて自然の大切さを感じました。三日目は最終日ということもあり、クラス毎に楽しむ企画でした。九クラス中七クラスが那須ハイランドパーク、二クラスがバイベキューという日程でした。少し雨がぱらつきましたが、とても楽しい一日となりました。

入学して四ヶ月、クラス内の親交を深め、社会への視点を開く良いきっかけを持つことが出来たと

定時制五十周年記念式典開催!!

土浦一高定時制五十周年記念事業として、左記の通り記念式典が挙行される事になりました。

一期日 平成十年十一月八日(日)
二時 間 十一時~十二時
三場 所 進修記念館アリーナ

職員室だより

数 学 科

四年にわたり学校長を勤められ昨年百周年の大役を果たされた青山先生が今春定年退官なさいました。御存知ない方もいらっしゃるかもしれませんが先生は数学科所属でいらつしました。

また昨年は白田先生が竹園高校に、今春は松延先生が県教育研修センターへと異動されました。現在数学科は十一名、飯嶋(一学年主任)、久保田(三学年主任・高20)、館(数学科主任)、宮川(一学年副主任・高25)、足立(1H担任・高26)、浜野(2I担任・高28)、袖山(2D担任、増山(3G担任、柏(3H担任、菊池(2A担任)、酒井(高34)により構成されております。

旧職員の教え子も多く在職していることもあって、古き良き伝統は昔ながらの職員室の風情とともにしつかりと保存されているようです。とはいえ新教育課程による授業内容の断片化、世界の主要国中で最少とまで言われている小中学校の数学授業時間数の減少にもなう計算力の低下等、日本の数学教育界を吹き荒れる嵐の影響に土浦一高も全く無縁とは言えません。受験のみならず将来の日本にとっても大切な生徒の数学力を今後ともいかにして極めて高い水準にまで育んで行くか、職員一同そのための適切な次の一手を活発に議論する今日この頃です。

英 語 科

本年度の学年担当は、一年倉持正男(1E担任、足達美知子(1A担任)、根本雄一(1I担任)、川村知夫(庶務部長)、二年笹目俊夫(学年副主任47年卒)、飯山克則(2G担任)、日向久(2B担任59年卒)、川崎安定(教務副部長46年卒)、三年桜井浩(3F担任50年卒)、原光広(3C担任55年卒)、川村、川崎、高橋好文(教務部長)です。

我々スタッフ十一名は英語科の良き伝統を継承しつつ、生徒諸君に知的刺激を提供しております。英語科職員室の扉をたたき、夕方遅くまでヴェランダ等で質問している姿は昔と変わりがありませんが、その数が減少しているのが気になるところです。

ところで、英語科が主催している行事「国際セミナー」についてお話をいたします。このセミナーは石崎先生のご尽力大なのですが、毎年外国人をお招きして、その国の文化、言語等々について講演をしていただいております。このセミナー回を重ねておりますが、一昨年は、笹目先生の同期生で、現在青山学院大学助教授であられます小張敬之先生をお招きして、「英語の世界」へ多くの生徒諸君を誘っていただきました。

以上近況報告とさせていただきます。

家 庭 科

平成六年度より新教育課程の実施に伴い、家庭科が男女必修となりました。(全日制は一、二年生、定時制は二、三年生で履修)

家庭科は昭和三十八年より女子のみが必修となり、非常勤講師が長いこと担当してきましたが、平成四年には専任教諭一名が採用、同六年には専任講師も加わり、二名となりました。今年度からは教諭二名で担当しています。

世の中の大きな変化に起因して、親の意識の変化も大きい。現在、家庭科教育は生活に関わる基本的知識や技術を身に付ける機会を子供達へ与える場として、期待されています。その点に関して男女差はありません。

高校の家庭科で特徴的なものは、個人の家庭での研究実践である「ホームプロジェクト」と学校家庭クラブの活動が、教育課程の中に位置づいていることです。

今年度、本校家庭クラブでは活動の中に「旧本館の公開」のためのボランティア活動を加え、様々な事前準備を始めたところです。これは国指定重要文化財である旧本館に少しでも多くの人が親しめるよう手助けしようとするものです。

文化財が親しまれ大切に受け継がれていくことを応援していただきたいと思っております。

各 部 だ よ り

水 泳 部

平成十年度、水泳部は、三年生男子四名、三年生女子一名、二年生男子二名、二年生女子五名、一年生男子三名、女子マネージャー二名(三年生一名、二年生一名)の計十七名で、個々の技量や目的に応じて活動を行っています。部員数が年々減少傾向にあることが、やや寂しいところです。

そんな中で、平成九年度、十年度に、女子が、国体、インターハイ、関東大会に出場するという、優れた成績を残すことができました。

平成十年度は、三上麻里(二年)が、自由形で、国体(神奈川県)、インターハイ(高松、関東大会(千葉))に出場し、国体では混合女子四百メートルリレーにおいて七位に入賞しました。また、小島美由紀(二年)も、バタフライで、インターハイ、関東大会出場を果たしました。

平成九年度は、三上、小島に加えて、井原由起子、鎌田真希(現筑波大一年)の四名により、四百メートルリレー、および四百メートルメドレーリレーで関東大会(前橋)出場を果たしました。リレーによる関東大会出場は、大きな喜びでした。なお三上は、背泳ぎで、国体(大阪)、インターハイ(京都)にも出場しました。

顧問は、倉持、阿内、吉田の三名の他、定時制の綿引教諭にもお手伝いいただいております。

(顧問 吉田智美)

バレーボール部

現在、男子部員十三名(二年三名、一年八名、女子マネージャー二名(三年五名)、女子部員十一名(二年六名、一年五名(三年四名))で活動しております。

最近の中高校生のバレー離れは深刻で、特に男子においては、県南地区で強豪私立高四校を含めて実際に活動しているのは十一校、更に十月末の地区大会(県南選手権)の参加校は五校と寂しい限りです。

女子においても、やはり今度の県南選手権の出場校は十四校と、部員が集まらずに活動がままならない高校が増えてきております。そうした中で本校は、男子においては「桜水クラブ」の諸先輩方の多大なるご支援をいただき、一昨年には部創立五十周年を迎え、すばらしい記念誌を発行していただきましたし、女子においては、前顧問の鈴木先生のおはからいで、休日等にOGの皆様は練習を見ていただき、とても恵まれた環境の中で活動できていると感謝しております。

最近では、戦績の方はご期待にそえておりませんが、今後、諸先輩同様部員の中から一人でも多くのバレー指導者が出てくれることを願いつつ、部員共々頑張ってください。また、部員共々頑張ってください。また、部員共々頑張ってください。また、部員共々頑張ってください。

(顧問 池井 芳則)

筑波大学合格者数 最高新記録樹立

平成10年度大学入試報告 進路指導部

平成10年度入試で光彩を放つのは、筑波大学六十五名の大量合格です。もちろん、全国第一位の抜群の合格数であり、これまで最高記録であった平成三年度入試の五十九名を塗りかえる見事な成績でした。

平成八年度入試では東工大の合格数が最高新記録、九年度入試では東大の合格数が最高新記録、そして今年度が筑波大という風に、ここ十年余り、本校の進学成績は、それぞれの学年特色が存分に発揮された全国A級の躍進を続けています。

「水戸一高に追いつけ、追い越せ」という、今は懐かしい往年のスローガンが端的に物語っているように、本校は、一昔前まで、大学進学成績では水戸一高の後塵を拝するナンバー2の位置にあったわけですが、現在では、県レベルの首位争いの次元を大きく超えて、全国レベルでの確固たる進学高校の地位を築いています。

この躍進の十年間を、土浦一高の「黄金時代」と呼んでも、それは誇張でも過言でもないように思われます。

下の表は、東大合格数上位三十校について、昭和四十年以降の全国進学高校の変遷を示したものです。通覧して懐然とさせられるのは、公立高校の「栄枯盛衰」です。その事情経緯は様々ですが、かつて栄光をほしきままにした日比谷高校、西高校等の凋落や、次の時代を担った「公立御三家」の湘南、浦和、千葉高校の斜陽の姿には、「黄金時代」の維持がいかに難しいものであるか、居ずまいを正さざるものがあります。

土浦一高が、今後も「黄金時代」を堅持し、さらなる躍進を目指すためには、現状に慢心閑居することなく、これまでの研鑽と努力を謙虚に継続することの上に、新時代をにらんだ高次な教育思想の構築と展開が必須条件であることを肝に銘じなければなりません。

平成10年度 主要大学合格状況

※ () 内の数字は新卒生の合格数

◇国公立大学

北海道大 13 (9)
東北大 16 (10)
茨城大 4 (3)
筑波大 65 (52)
千葉大 9 (7)
お茶の水大 9 (8)
東京大 27 (19)
東京外語大 6 (5)
東工大 10 (4)
一橋大 7 (2)
横浜国大 9 (5)
名古屋大 2 (1)
京大 6 (3)
その他計 43 (24)

計 226(152)

◇私立大学

青山学院大 26 (17)
学習院大 25 (6)
慶応大 51 (27)
国際基督大 6 (5)
上智大 32 (18)
中央大 29 (10)
津田塾大 9 (9)
東京女子大 15 (9)
東京理科大 94 (47)
日本女子大 20 (14)
明治大 49 (22)
立教大 17 (9)
早稲田大 79 (42)
その他計 199 (66)

計 651(301)

東大合格数・上位30校の変遷 (◎は私立 △は国立)

昭和40年 (1965年)

1	日比谷	(東京)	181
2	西	(兵庫)	127
3	戸山	(鹿児島)	110
4	◎麻布	(東京)	91
5	△教育大付属	(東京)	87
6	新宿	(東京)	72
7	△教育大駒場	(東京)	68
8	◎灘	(兵庫)	66
9	小石川	(東京)	63
10	◎開成	(東京)	55
11	浦和	(埼玉)	52
12	湘南	(神奈川)	50
13	旭丘	(愛知)	49
14	小山台	(東京)	46
14	◎栄光学園	(神奈川)	46
16	両国	(東京)	42
17	上野	(東京)	40
18	◎ラ・サール	(鹿児島)	38
19	△学芸大付属	(東京)	34
19	△広島大付属	(広島)	34
21	◎武蔵	(東京)	33
22	立川	(東京)	29~25
22	高松	(香川)	29~25
24	修猷館	(福岡)	24~20
24	天王寺	(奈良)	24~20
24	岡山朝日	(岡山)	24~20
24	小倉	(福岡)	24~20
24	松本深志	(長野)	24~20
24	長野	(長野)	24~20

昭和50年 (1975年)

1	◎灘	(兵庫)	126
2	△教育大駒場	(東京)	123
3	◎麻布	(東京)	106
4	◎開成	(東京)	104
5	△学芸大付属	(東京)	95
6	◎ラ・サール	(鹿児島)	83
7	△教育大付属	(東京)	76
8	湘南	(神奈川)	60
9	◎武蔵	(東京)	57
10	浦和	(埼玉)	55
11	戸山	(東京)	46
12	◎栄光学園	(神奈川)	45
13	西	(東京)	42
13	旭丘	(愛知)	42
15	富士	(東京)	35
16	長野	(長野)	34
16	岐阜	(岐阜)	34
18	青山	(東京)	33
19	千葉	(千葉)	32
20	◎久留米大付	(福岡)	30
21	立川	(東京)	28
21	高松	(香川)	28
23	◎桐朋	(東京)	27
24	両国	(東京)	26
24	松本深志	(長野)	26
24	大分上野丘	(大分)	26
27	小石川	(東京)	24
28	△金沢大付属	(石川)	23
28	◎愛光	(愛媛)	23
28	岡山操山	(岡山)	23
28	熊本	(熊本)	23

昭和60年 (1985年)

1	◎開成	(東京)	157
2	◎灘	(兵庫)	121
3	◎ラ・サール	(鹿児島)	117
4	△学芸大付属	(東京)	100
5	◎麻布	(東京)	82
6	◎武蔵	(東京)	73
7	△筑波大駒場	(東京)	72
8	◎栄光学園	(神奈川)	62
9	浦和	(埼玉)	61
10	△筑波大付属	(東京)	59
11	湘南	(神奈川)	54
12	千葉	(千葉)	50
13	◎桐朋	(東京)	46
14	◎久留米大付	(福岡)	44
15	◎駒場東邦	(東京)	42
15	◎甲陽学院	(兵庫)	42
17	◎桐蔭学園	(神奈川)	40
18	◎広島学院	(広島)	37
19	△金沢大付属	(石川)	36
19	◎愛光	(愛媛)	36
21	戸山	(東京)	32
22	国立	(東京)	30
23	◎洛星	(京都)	27
24	青山	(東京)	26
24	西	(東京)	26
24	千種	(愛知)	26
27	◎東海	(愛知)	23
28	△お茶女大付	(東京)	21
28	◎桜蔭	(東京)	21
30	東葛飾	(千葉)	20

平成10年 (1998年)

1	◎開成	(東京)	205
2	◎麻布	(東京)	101
3	◎桐蔭学園	(神奈川)	96
4	◎灘	(兵庫)	92
5	△学芸大付属	(東京)	81
6	△筑波大駒場	(東京)	79
7	◎ラ・サール	(鹿児島)	77
8	◎栄光学園	(神奈川)	63
9	◎桜蔭	(東京)	58
10	◎駒場東邦	(東京)	55
11	◎海城	(東京)	54
12	◎洛南	(京都)	53
13	◎巣鴨	(東京)	46
14	◎武蔵	(東京)	44
15	◎久留米大付	(福岡)	40
16	◎東海	(愛知)	39
16	◎愛光	(愛媛)	39
18	◎聖光学院	(神奈川)	36
19	△筑波大付属	(東京)	35
20	◎東大寺学園	(奈良)	32
21	岡崎	(愛知)	30
22	◎白陵	(兵庫)	29
22	◎広島学院	(広島)	29
24	土浦第一	(茨城)	27
25	◎弘学館	(佐賀)	26
25	◎青雲	(長崎)	26
25	◎鶴丸	(鹿児島)	26
28	◎桐朋	(東京)	25
28	◎浅野	(神奈川)	25
28	千代	(千葉)	25
28	熊本	(熊本)	25

平成9年度 進修同窓会決算書

収 入 額 一金 23,790,367円也
支 出 額 一金 13,320,147円也
差 引 残 高 一金 10,470,220円也

【収 入】

単位：円

項 目	予算額	決算額	比較増減	備 考
1 繰 越 金	10,914,142	10,914,142	0	前年度繰越金
2 終 身 会 費	100,000	330,000	230,000	
3 年 会 費	5,000,000	10,432,000	5,432,000	
4 入 会 金	1,950,000	2,005,000	55,000	新会員全・定397名×5,000円 推薦会員2名×10,000円
5 寄 付 金	100,000	100,000	0	中46、47卒業生より
6 雑 収 入	5,858	9,225	3,367	預金利息
合 計	18,070,000	23,790,367	5,720,367	

【支 出】

項 目	予算額	決算額	比較増減	備 考
1 総 会 補 助	700,000	609,906	90,094	資料、会場設営外
2 会 報 発 行 費	6,500,000	6,151,735	348,265	会報印刷代、送料
3 通 信 費	400,000	18,750	381,250	はがき代外
4 卒業記念品費	200,000	160,000	40,000	卒業証書用筒代
5 卒業25、40、50 60周年記念品費	400,000	400,000	0	
6 会 議 費	500,000	15,600	484,400	
7 支部連絡費	300,000	200,000	100,000	
8 生徒奨励費	600,000	661,436	△61,436	生徒会補助
9 別途積立金	4,000,000	4,000,000	0	
10 慶 弔 費	100,000	66,740	33,260	
11 事務局費	1,000,000	772,220	227,780	
12 還 付 金	100,000	0	100,000	
13 予 備 費	3,270,000	263,760	3,006,240	
合 計	18,070,000	13,320,147	4,749,853	

上記のとおり決算しました。

※項目間の流用を認める。

平成10年3月31日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 幡谷 祐一

監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

平成10年3月31日

監事 丸木 政之助 印

監事 野山 茂 印

進修同窓会会務分担 (平成10年度)

1. 本部

担当	本 部 役 員	学 校	主 な 業 務
総務	豊嶋 木島 説田 小野(慶) 谷中 中川	教頭 校内幹事	会議の招集・設営・進行 同窓会の総括的業務
経理	青山 小野(治) 石川 渡辺 柴沼 小城	事務部 校内幹事	予算編成と執行・決算 諸会費等の徴収
会報	横田 木島 谷中 堀越 宇田川 宇田 鈴木(志) 鈴木(淳)	教頭 校内幹事	会報の編集・発行
名簿	大曾根 梅澤 小網 柳沢 野村 草刈 小城	教頭 校内幹事	名簿の編集・発行 会員の情報収集・整理
事務局	横田 大曾根 谷中 野村 桜井	教頭 校内幹事	事務局との相互連携
監事	野山 長南		本会会計の監査

2. 支部

支部会等に際して、本部に対し出席要請がある場合は、会長又は下記の副会長のうち1名が、校長(または代理)とともに出席する。ただし、遠隔地の場合にはこの限りでない。

豊嶋、横田、大曾根、青山、植木、幡谷(浩)、桜井

3. 進修同窓会校内幹事

高15 小松崎 剛(地歴) 高25 宮川 茂(数学) 高30 中島 博司(地歴)
高30 大塚奈美子(国語) 事務室長 橋本 忠一 主事 藤井 幸代

進修同窓会基金管理委員会

同窓会長 幡谷 祐一 (中40)

委 員 11名

土浦市内在住副会長 4名

豊嶋 貴 (中37)

横田 尚義 (中44)

大曾根宏亮 (高4)

桜井 光孝 (定4)

全日制教頭 1名 濱田 洋一 (高11)

事務室長 1名 橋本 忠一

その他(会長委嘱) 5名

青山 和義 (高8) 副会長

長瀬 宗男 (高11) 校長

木島 幸夫 (高1) 本部幹事

谷中 良雄 (高12) ヶ

野村 ルナ (高15) ヶ

監 事 2名

野山 茂 (中39)

田嶋 栄吉 (高11)

編集後記



創立百周年記念事業も一段落し本校も新たな百年に向けて、歩み始めました。進修記念館、進修学習館も完成し、本館校舎の耐震工事も完了し、現在進行中の特別棟の耐震工事もまもなく終わろうとしています。

会報第五十五号編集にあたり、多数の原稿、貴重なお写真などお寄せ頂き有難うございました。紙面の関係で、すべて掲載できなかったことや、手を加えさせて頂きましたことを深く

お詫び申し上げます。今後とも、進修同窓会報にご理解・ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

◇ ◇ ◇

進修同窓会会報第55号
発行日 平成10年10月30日
同窓会会報編集委員会
編集委員長 横田尚義
編集委員
木島幸夫 谷中良雄 堀越博
鈴木志郎 宇田川仁一郎
宇田邦利 鈴木淳一 濱田洋一
小松崎剛 宮川茂 中島博司
大塚奈美子

「会員名簿」の
取り扱いのお願い!!

本会では五年毎に、同窓生相互の縦横の連繋並びに各分野でご活躍の母校関係者のさらなる発展等を祈念し、会員名簿を発刊しておりますが、プライバシー漏洩等にも配慮し、取り扱いには十分ご注意の程、お願いいたします。

会費納入の
ご報告とお願い

平成九年度の会費納入状況は、三月末現在、三千六百六十八名の皆様から、千七十六万二千円をいただき誠に有り難うございました。

今年度も納入していただきました振替用紙を同封いたしました。会費は、同窓会事業費に当てられますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。